

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像  
自分のよさを知り、失敗を恐れなくて挑戦する子

令和7年度 重点目標  
『かかわりを学びに』 ～どの子ども学びの手応えを実感できる授業づくり [話す・聞くを軸にした学び]～

確かな学びの現状  
令和6年度全国学力・学習状況調査の結果では、国語・算数における正答率が大阪府平均・全国平均をすべて上回っていた。また、「すくすくウォッチ」の結果でも正答率は大阪府平均を上回っていた。そのため、児童の学びは良好な状態を維持していると考えられる。一方で、全国学力・学習状況調査の結果において、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるか」などの思考力・判断力・表現力等に関するアンケート項目では、肯定的な回答率が低く、学年が上がるにつれて下降傾向にあるという課題が残っている。これらの課題に対して、相手意識や目的意識をもって話す活動や、友だちとの考えの共通点や相違点に着目して聞く活動、考えを再構築するための交流などを重視した指導に取り組む。また、学びの基礎をしっかりと固め、人とかかわりの中で学びの手応えを実感できる授業づくりを重点目標とし、家庭学習の手引きの活用による学力の維持にも取り組んでいく必要がある。

豊かな心・健やかな体の現状  
全国体力運動能力調査では、どの種目も全国平均に近い値にはいるが、平均を下回る種目がほとんどである。昨年度に引き続き、堺っ子体操を重点的にを行い、体づくりの運動を行う。また、休み時間は各クラスで「みんな遊び」を実践するなど、休み時間になったら外に出て体を動かす機会を設ける。防災教育では、昨年度から高まる南海トラフ地震の発生の危険性に備え、自ら考え、命を守る行動をとろうとする児童の育成が必要なのではないかと考える。そのため、避難訓練を通して、実際に地震が発生したことを想定し、児童自身にどうすればよいかを考える機会を設け、練習ではなく命を守る行動を意識する取り組みを行う。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)					
								自己評価	学校関係者評価				
確かな学び	教科学習	確かな学力を育む授業づくりをする	●校内研修による授業力の向上に努める。研修は、主に「話す・聞く」を軸とした日々の実践の積み重ね、研究授業と教科研修委員会での実践交流により進めていく。	A:実践交流の実施状況(月1回実践共有) B:児童アンケートで肯定的回答85%以上	A:実施状況 B:児童アンケート	学年末	B	A	研究授業や教科研修委員会での実践交流を通して、授業改善に向けた具体的な手立てを共有し、年度当初の計画に沿って着実に取り組みを進めてきた。その結果、教育アンケート「授業の中で、話し合い聞いたりして『わかる・できる』と感じることがありますか。』の肯定率は93%となり、目標値を上回った。	A	発達段階に応じた指導のもと、学年相応の「話す・聞く」力がついている。		
			○家庭学習等の共通理解による学力向上に努める。自主学習の手引きをもとに、学習習慣の獲得を促進する。	児童アンケートで肯定的回答75%以上	児童アンケート	学年末	B	B	児童が取り組みやすい例を提示し、学習方法や書き方のイメージを全体で共有した。その結果、家庭学習を振り返りながら学習に取り組む姿勢が増え、学習意欲や理解の深まりが見られた。一方、教育アンケート「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。』の肯定率は66%とまだ、目標値には届かなかった。	B	家庭学習ができていない児童を紹介したり発表させたことで、児童が意欲的に取り組み習慣化するよう指導してほしい。		
			○生活科・総合的な学習を中心とするカリキュラム・マネジメントの推進を図る。高学年を中心に、学習における児童生使用パソコンの活用を推進する。	A:カリキュラム・マネジメントの実施の有無 B:児童アンケートの肯定的回答75%以上	A:実施状況 B:児童アンケート	学年末	B	A	年間指導計画に基づき、教職員間での共有や見直しを継続的に行ってきた。また、児童用パソコンを積極的に活用した授業を進めており、今後は活用場面のさらなる拡大と教職員の指導スキル向上を図ることで、授業の質の向上につなげていきたい。その結果、教育アンケート「授業の中で、児童用パソコンを使っていますか。』の肯定率は94%となり、目標値を上回った。	A	必要不可欠なものなので、授業で積極的に使用し、正しく活用できるよう指導してほしい。		
特別支援教育	一人一人の課題を把握し、課題に沿った教育を行う	○ひまわり学級：それぞれの児童の特性を踏まえた個別の指導を行い、達成感を感じつつ、成功体験を積み上げ、自己肯定感を育てる。また、集団の中で自分を生かす活動できるように支援する。	教育支援計画、個別の指導計画をもとに評価する。達成率80%以上	教育支援計画 個別の指導計画	学年末	B	B	多くの児童がひまわり学級での学級開きやひまわり体育、栽培活動などの活動や学習に積極的に取り組み、達成感を味わいながら自己肯定感が育ちつつある。参加が難しい児童は、事前に見通しをもたせ活動や学習に参加できるように促している。	A	集団での自立活動において、「座る・話す・仲良くする」の3点を目標に取り組みんだ。小集団での活動を通して基本的な姿勢や関りが安定しつつあり、学級でも徐々に同様の行動が見られるようになってきている。今後も継続的な支援と環境調整を行い、学級でも活躍できるよう支援していく。	A	自分ができることに積極的に取り組むのは良い。今後一人一人に寄り添った指導をしてほしい。	
		○ひばり教室：通常学級の困り感のある児童に対して、担任・家庭と連携しながら、個々の支援ニーズを把握し、改善・克服を目的とした、個別のトレーニングによるスキルアップを図る。	個別の指導計画をもとに評価する。	個別の指導計画	学年末	B	A	個別の支援計画に基づいた目標を設定し、家庭・担任・児童と支援方針を共通理解し取り組んでいる。児童は自身の得意なことや苦手なことを知り、それぞれの課題に取り組むのが、解決・克服・緩和にむけて力を身につけつつある。	A	個別に適した指導をすることにより、子どもたちの困り感を軽減できたいと思う。			
		○通常学級：ユニバーサル・デザインを意識した学級経営を行い、だれもが「わかる、できる」授業づくり、またそれぞれの児童が「居場所」を感じられる学級づくりをめざす。	達成率80%以上	児童アンケート	学年末	B	A	多様な特性をもつ児童への配慮や授業のつくり方等を、夏期研修にて行った。また、UDに向けて学習で使用する掲示物を学校で統一し、全員が参加できる環境をつくっている。	A	通常学級でのUDに向けた学習掲示物の使用の徹底や、普段の学級内でのなかまづくり実践の結果、授業において「安心して気持ちや意見を伝えることができるか」というアンケートに対し、肯定的な回答が86.5%となり、目標値を上回った。	A	子どもの異質なものづくりに気づき、良い方法へと少しずつでも変えていってほしい。	
豊かな心・健やかな体	生徒指導	笑顔あふれる学校づくりをする	○「考え、議論する道徳」に向け、公開授業を年1回以上行う。また、いじめを自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、自分と同じように他者を尊重する態度を育む。	公開授業を行い、実践交流する。	公開授業	学年末	B	A	公開授業を9月に行った。ここでは、「考え、議論する道徳」を学校全体でめざしていけるように、まずその前段階として、『話し合いのつながりから他者とのつながりをたたくさんもつ』というテーマをもって授業を作り上げた。そして、その場で感じたことを全体で振り返ることができた。	A	公開授業を通して、学校全体で考え、議論する道徳について意識し取り組むことができた。そして、全学級で行った授業参観における道徳科の授業でも、そこに目標を持ち実践することができた。また、本年度における校内の研究授業でも、道徳科の授業を実践する学年も多く、学校全体で交流する機会をたたくさん取組むことができた。	A	研究授業で実践する学年が増え、児童同士で話し合う機会を設けていることは評価できる。
			●なかまづくり(人と環境づくりを軸として、一人ひとりが認められ、高め合う集団を育成する)：自分を認め、相手も認めることができるような取り組みを成長段階に応じて行う。・自他共に認め合う態度を醸成することで、寛容さと謙虚さが一体となった広い心を育み、互いに高め合う。	A:グループワークを実施し、その内容と効果を報告する。 B:児童アンケートの肯定的回答80%	A:実践報告 B:児童アンケート	学年末	B	B	人権の研修テーマに対する各学年の目標や取り組み、実践記録を学期ごとに行った。またグループワークだけでなく、様々な授業において、聞く姿勢や話し合いのできる環境づくりを促すと、「なかまづくり」を意識した取り組みを行った。	A	なかまづくりにむけて、学年としてグループワークやなかまづくりに向けた取り組みを行い、各学期末に授業と課題を提出し、次学期につなげた。また、各学年の1年の取り組みや成果課題については、研修全体を通して報告を行った。なかまづくりに向けた取り組みの結果、「自分よりよくなるがあるか」に対して94.4%、「友だちのよくなるを知っているか」に対しては95.2%と、どちらも肯定的な回答が、目標の90%を上回った。	A	自分のよいと友だちのよとを分けて知っていたり、なかまづくりにできたことと判断してよいのか。知ってどう行動すればよいのかを明確にしたいと思う。
			●生徒指導：ルールの必要性に児童自らが気づき、すすんで行動できる指導を行う。(朝礼での啓発、隔月の生活目標の設定、児童会からの働きかけ) ・不登校対応の協力的体制、いじめ防止推進研修、とどちアンケートの実施 ・いじめ早期発見と早期解決・関係機関との協力・児童の心のケア・組織的対応	児童アンケートの肯定的回答90%以上	児童アンケート	学年末	B	A	生活目標を朝礼などの機会に教員、児童会から発信し、児童自らがルールの必要性に気づく取り組みを続けている。とどちアンケートを実施し、いじめ・不登校の早期発見、未然防止に努めている。登校委員会を実施し、学校全体で不登校対応をすすめている。・SC、SSW、教育センターなど外部機関と連携した不登校対応を行っている。	A	生活目標を朝礼などの機会に教員、児童会から発信し、児童自らがルールの必要性に気づく取り組みを継続した。とどちアンケートを実施し、いじめ、不登校の早期発見、未然防止に努めた。SC、SSWと連携し、登校委員会を通して不登校対応を行った。児童アンケート「いじめはほんまにんやないか」としては、95.8%と高い意識を持っている。「学校の決まりを守っていますか」では肯定的意見92.9%と目標を達成することができた。	A	「きまってることが大抵だ」という意識が子どもたちの中にあることは良い。同時にどうするようになるか、そのために何をすべきか考えられるよう指導してほしい。
○児童活動 ・児童が自ら課題を見つけ、主体的に取り組む学校づくりをすすめる。(児童議会、児童会役員選出・活動、児童による啓発)	児童アンケートの肯定的回答90%以上	児童アンケート	学年末	B	A	全校朝礼での司会、あいさつ運動や体育大会のスローガン、募金活動、新たな活動の提案など児童が主体的に取り組む学校づくりをすすめている。	A	朝礼で児童が活躍する場を設定した。あいさつ運動や募金活動を行ったり、休み時間のテラスの開放など自発的な活動を児童会を中心に児童が主体的に取り組む学校づくりを進めることができた。また、児童アンケート「人の困っているときは、進んで助けたいですか」では、肯定的意見93.5%「人の役に立つ人間になりたい」と思っていますか」では、肯定的意見96%と目標を上回ることができた。	A	今後も、児童が活躍する場をつくってほしい。			
○美化指導 ・児童が学校をきれいにすることのよさに気付く指導を行う。(そうじの仕方の指導・高学年が低学年の手本になる清掃ができる指導)	児童アンケートの肯定的回答85%以上	児童アンケート	学年末	B	A	高学年(5年生6年生)が低学年(1年生2年生)の清掃のお手伝いに行くなど、2学期より児童・保護者へ向けて啓発活動を強化予定。学校健康診断により明らかになった健康課題についてほけんだより、掲示物にて啓発を実施。	A	5年生・6年生が1年生、2年生の清掃のお手伝いに行きなど、高学年が手本になって清掃の仕方を教える取組を行った。日々の清掃指導を通して、学校をきれいにすることのよさを伝えたり、美化委員会が中心となり掃除道具をチェックすることで掃除道具もきれいに片付けるように啓発した。児童アンケート「そうじ時間は、一生懸命そうじしていますか」で肯定的意見96%と目標を達成することができた。	A	学校で掃除をしているので、掃除道具の使い方を分かっている。			
保健・体育・給食	学力を支える健やかな体を育成する	○保健：学校災害発生時の防止(アタイム継続)、心身の健康課題の早期発見および組織的対応。	ケース会議の実施、HP,ほけんだより掲示物を活用した啓発	実施状況	学年末	B	B	アタイム導入4年目。学校災害発生数は1学期35件(昨年度18件)。12月(昨年度10件)、ホール遊びへの導入や休憩時間の運動場利用制限緩和を考慮すると大幅に増加したとは言えない。終日の保健室来室者数は2745人(昨年度3195人)であり、約15%減少。健康診断結果後受診率については運動器・内科にて増加あり。	A	アタイムは結果も出ていて評価できる。			
		○体育：授業の初めに「堺っ子体操」を実施することや、限られた場所でも運動量を確保する工夫を小学校体育指導の手引を使って行うことで、健康の保持・増進と体力の向上をめざす。そのため、職員研修(若手研修)の実施や委員会活動による児童への啓発を行う。	児童アンケートの肯定的回答85%以上	研修実施状況 職員アンケート	学年末	B	B	児童に向けて「堺っ子体操」の指導や教員向けに水泳研修を行った。今後は委員会活動でリズム縄跳びの実施を呼びかけ、健康の増進と体力の向上をめざすようにする。	B	委員会活動において、リズム縄跳びを推進した。冬季には学年の実践に応じて持久走にも取り組んだ。職員アンケートでは、80%以上の職員がこれまで通り体育前に堺っ子体操を実施したという肯定的な回答をした。また、90%以上の職員が小学校体育指導の手引を使って体育の授業を行ったと回答した。よって目標を達成した。	B	体を動かす習慣が身につくように指導してほしい。	
		○給食：健康行動の形成・維持を目標とし、栄養バランスを理解して、朝食・給食を摂る態度を育成する。そのために、給食前の衛生点検や委員会活動による児童への啓発を行う。	児童アンケートの肯定的回答80%以上	点検結果 児童アンケート	学年末	B	B	1学期に朝食、給食、牛乳の栄養などについて、学年に応じた指導を実施した。給食委員会の児童が衛生点検とマナー向上の啓発を行っている。	B	今年度、児童アンケートの質問で「自分に合った量を残さず食べているか」から「好き嫌いで残さないように食べているか」に変更しているが、肯定的回答は76.5%であった。給食を含め毎日の食事が自分の成長のために必要な栄養源であることを改めて指導していく。	B	子どもたちに「食」の意識を高めて、好き嫌いをなく残食を減らすようになってほしい。	
○安全指導：学校安全マニュアルをもとに、日常から全職員が災害や事故対策を徹底したり、児童も意識できるよう指導したりして、安心安全な学校にする。そのために、避難訓練を実施したり、職員研修を実施したりする。	A:児童アンケート肯定的回答85%以上 B:職員研修の実施	A:児童アンケート B:研修実施状況	学年末	B	A	学期に1度の避難訓練を実施し、児童の安全への意識を高める指導を行った。避難経路の見直しや教護スペースなどの確保を行い、改善に努めた。心肺蘇生講習会やアレルギー講習会など、児童の安全を確保するための研修を行った。	A	避難訓練については、様々な条件を勘案しながら実施し、児童の安全確保に努めた結果、児童アンケートでは94.5%の児童が避難の仕方を知っていると回答した。(あてはまる79.5%、どちらかといえばあてはまる15%)研修の実施に関しては、前年度の反省を生かして、学習が始まる前に心肺蘇生講習会などを行うことができた。	A	今後も訓練を大切にして、防災意識を高めてほしい。			
幼小一貫	長所を伸ばそうとする態度や、粘り強く取り組む態度を養う	★キャリア教育、いのちの授業など、自分自身を見つめる活動を取り入れる。	各学習の実施の有無	実施状況	学年末	B	B	10月上旬に、4年生にていのちの授業を実施し、3学期は6年生がキャリア教育授業を実施予定。	B	いのちの授業では、保護者にも参加していただき、人の命の大切さについて考えることができた。また、6年生のキャリア教育では、総合の学習とともに、キッズニア甲子園で様々な体験ができ、将来の職業について学ぶ機会を持つことができた。また、幼小連携においては、8つの幼稚園を招き、1年生と交流した。小中連携としては、夏休みに職員との合同研修を行い、意見交換をした。	A	命の授業では、親で伝えづらいことを、上手に話してくださるともよかった。幼小中の教師が連携をしていることは評価できる。	
地域協働	地域共育学校	●地域資源(人材等)の活用により、生活・総合的学習や防災・キャリア・環境教育等を充実させる。	学習の中で、計画的に地域資源を活用する	実施状況	学年末	B	B	田植え、稲刈りは地域の方に体験させていただいた。また、クラブでは地域の方に講師として来ていただき、指導していただいた。	A	田植えや稲刈り、ジャガイモ植えなど、食育の原点になる経験や、地域とのつながりを感じるような体験は、今後も続けてほしい。			
		○学校力向上プラン、日常的な学校教育活動をHPや学校通信等を通じて積極的に発信する。	A:プリント、HP、学校通信で積極的に発信する B:保護者アンケートの肯定的回答85%以上	A:実施状況 B:保護者アンケート	学年末	B	B	月1回の学校だより、tetoruを活用しての連絡配信、HPでの活動配信ができています。	B	日々のホームページ更新とともに、月1回の学校だよりの発行を継続することができました。また、保護者アンケートにおいては、「学校は、ホームページや広報、学年通信等で、学校の様子を伝えている」の質問に対して肯定的な回答は、83.4ポイントで、昨年度より、6.2ポイント上がった。	B	tetoru配信では、連絡を見逃すことができ、大変便利。HPでは、どんな学習をしているか、発信してほしい。	

校長より(年度末)  
「確かな学び」では、本年度も「話す・聞く」を軸として、校内研修や公開授業を実施した。子ども同士が主体的に「話す・聞く」ができる姿までには至っていない。自主学習の取り組みなども進め、子どもたちに紹介することでやる気を促した。「豊かな心・健やかな体」では、校内において子どもたちの中で大きなトラブルは少ない反面、SNS上のトラブルや不登校といった課題がある。「地域協働」では、地域の方にご協力いただき、田植えやジャガイモ植えなども実際に体験することができた。キャリア教育にも実践することで、これからの社会で活躍することのできる子どもの育成に取り組んだ。

学校関係者評価者から(年度末)  
子どもに寄り添った指導をしていただき感謝している。コロナ以降、地域のつながりが希薄になってきているので、学校では子どもたち同士のつながりを大切にしてほしい。昨今の気象状況により、難しい面もあると思うが、可能な範囲で体力を向上していけるよう、運動量を確保してほしい。